

経済マンスリー

[アジア]

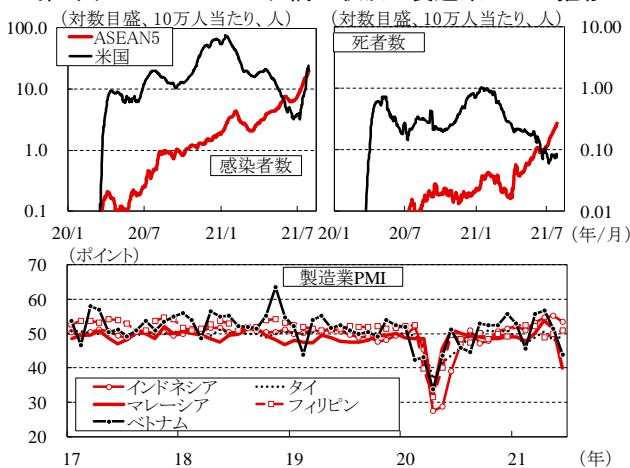
感染拡大続く ASEAN のワクチン確保状況

ASEAN 諸国は従来、欧米先進国に比べ新型コロナウイルス感染者・死者数を低位に抑えてきたが、足元では人口当たりの死者数が米国を逆転するなど、感染急拡大に直面している(第1図・上)。これまで堅調だった製造業 PMI が直近の6月実績では好不況の境目である50ポイントを下回る国も出てくるなど、個人消費のみならず、景気回復を牽引してきた輸出への下押しも懸念される(第1図・下)。

この背景には ASEAN 諸国でのワクチン普及の遅れがあろう。感染力の強い変異株の感染拡大もあり既に行動制限だけでは感染抑制が困難になっているにも関わらず、「少なくともワクチンを1回接種した人の割合」は ASEAN5 平均で15%程度と低水準に止まっている。各国とも調達を急いでいるが、人口比十分に確保できていない国もある(第2図)。更に ASEAN 諸国のワクチンの調達先をみると、先進国とは明らかに異なり、変異株に対しても有効される米英製は契約総数の半分程度に止まっていることがわかる。これは、当初米英製の供給は感染の深刻化していた先進国に優先的に回され、ASEAN 等を含む新興国は十分な量を確保できなかったためである。こうしたなか、ASEAN 諸国との経済的に結びつきも強く、早期の感染抑制に成功して国産ワクチン輸出余地のあった中国が大量供給したことから、約半分が中国製であるインドネシアを始め、中国製が数十%を占める国が少なくない。一方で、中国と国境を接しながら中国製の受け入れが少なく、ロシア製ワクチンを多く導入するベトナムのような国もあり、それぞれの国を取り巻く安全保障環境がワクチン調達にも影響している様子が窺える。

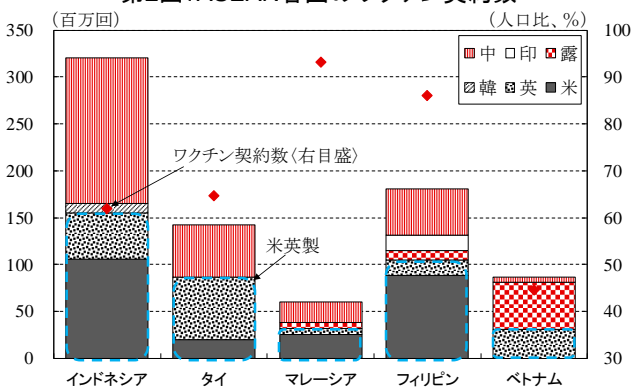
今後、ASEAN 諸国の景気回復を見通す上でも、やはりワクチン普及の進展は重要な鍵を握ると考えられる。この点、対欧州・日本に比べ出遅れ感のあった ASEAN 外交の挺入れとして閣僚派遣を加速させているバイデン政権が、ワクチン供給を強化する動きもみせており、ASEAN 側の対応も含めコロナ禍延いては景気への影響に注目する必要がある。

第1図: ASEANのコロナ禍の状況と製造業PMIの推移



(資料) WHO統計、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図: ASEAN各国のワクチン契約数



(注) ワクチン契約数の対人口比は所定回数接種における割合。
 (資料) Duke Global Health Innovation Center. (2020). Launch and Scale Speedometer. Duke University. <https://launchandscalefaster.org/speedometer-data>
 より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 野瀬 陽平 youhei_nose@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。